



第 1301 回例会報告

平成25年1月24日(木) 晴

【1月はロータリー理解推進月間】

会長挨拶

副会長 吉澤邦雄

挨拶

先日「今度の例会休むから代わりに挨拶お願いね!」と蒲地会長から言われました。またいつもの“痛い贅沢病”が出たのなら拒否をしようと思ったのですが、よく聞いてみますと、本日は昨年暮れから調子の悪かった声帯の検査入院と重なってしまったとのことです。今はたいしたことが無いことを願うばかりです。

さて、このところの雪や雨で心配されていた諏訪湖の“御神渡り”ですが、昨年に引き続き出現したようで大変喜ばしい限りです。

一方、連日ニュースを賑わしているのはアルジェリアのテロ(人質事件)であります。今現在、日本人9人の死亡が確認され、なお1人の安否確認ができないという最悪の状況になっております。また、今回の事件が解決したとしても今後この地域では

益々テロの危険度が増し、頻発して行くだらうと言われております。安全な国”日本”に住んでいると中々分かりませんが、こうした状況下、貿易立国(輸出立国)である日本の企業戦士は大変なリスクを負いながらも各地で仕事をし、今後も引き続き活動して行かざるを



得ないということを私たちは理解しておかなければなりません。

テロをはじめ紛争の元凶は宗教絡みのことが多いのですが、偏った富の配分、極端な貧富の差・貧困にあると言われております。今回の事件では、グローバル化した経済の中で安定した活動を維持するためには、あらゆる国・人々と親交を深め、相互理解を深め、心を通わせ合うことが大切であるということを感じさせられました。

今、私たちが行っているフィリピンの支援活動はこうした流れに合致しており、これからも大いに自負を持って活動してまいります。日頃の活動を通じ世界の平和を標榜する RC の存在意義は大であります。

本日は、会長検査入院のため吉澤副会長にご挨拶をいただきました。

■出席報告

会員数	35名
出席対象	35名
出席者数	25名
出席率	71.4%
前回修正	71.4%

■ニコニコBOX

19名	22,000円
累計	737,000円
目標額	130万円
達成率	56.7%

■今週のことば

小口洋子様、本日はお忙しい中お越しいただき感謝申し上げます。

御子柴文夫

■次回のプログラム

2月7日

セブ島訪問報告

国際奉仕委員会



◇幹事報告◇

【報告事項】

- 1) 残念ですが北信濃 RC が12月28日付けで脱会することが国際ロータリークラブで承認されました。
- 2) 来年度諏訪湖ロータリーから2名の地区役員が誕生します。

地区会計監事 蒲地整志会員

国際奉仕委員会 委員長 渡邊芳紀会員

ご苦労様です

【連絡事項】

本日 IM の参加について第1回目の出欠を取ります。よろしくお祈りします。

また IM の案内もお配りしました。ご一読ください。

【受領文書】

各クラブ広報が届いています。

宮坂ガバナーエレクトから、サンディエゴの国際居議会の席上から、ご挨拶のおはがきをいただきました。

第 1301 回例会

職業奉仕委員会 担当例会

遺言について

司法書士 小口洋子さん

本日は職業奉仕委員会担当で、司法書士の小口洋子さんから「遺言」についてのお話をいただきました。

大変貴重なお話で例会の卓話に沿った詳細な原稿をいただきました。

メモを真剣に取る会員も多く見受けましたので、別製本しお配りいたしますのでご活用ください。



プライドを持ってバッジを着けよう

第2670地区愛媛県伊予 R.C 藤井建夫氏の記事です。

プライドを持ってバッジを着けよう

これこそ真の広報です。

いわゆるマスコミに対する積極的な広報は不要と考えます。

ロータリークラブには、幾万人もの生きた広報者がいるのです。われわれ会員の一人ひとりが、ロータリーが提唱するサービスの真の意味を考え、理解し、実践し、脳にプライドを持ってバッジを着けて仕事にあたり、人に接する……。このことこそ最大の広報であって、これに勝るロータリーの広報はありません。そしてこの限りにおいてロータリーのバッジは、いっそうその輝きを増すのです。各会員が、バッジを着けることにプライドを持っていなかったとしたら、いくらマスコミを動員して広報しても、われわれが求める広報の意味を成しません。また、ロータリー主催の行事に行くときだけバッジを着け、普段は外して職に就くような会員がいるとすれば、その会員はロータリーの何たるかが理解できていないと判断されても仕方がないでしょう。

真のロータリアンになることを目指し、日々努力している事を自覚すること。そのことにプライドを持ってバッジを着けるなら、おのずから尊敬されるようになります。これこそ真の「広報」と考えます。

この原稿は、こうした原稿の少ない時に備えて、クラブ会報・雑誌広報委員会の林洋三委員長からお預かりしていたものです。